

山形県立博物館収蔵資料などの概要

- 1971 年開館、1976 年琵琶沼 自然学習園、1980 年 教育資料館
- 7 部門（地学、植物、動物、考古、歴史、民俗、教育）を擁する総合博物館
- 3 施設（本館、分館[教育資料館]、自然学習園[琵琶沼]）
- 各部門の特色と主な収蔵品

(1) 人文系各部門の特色と主な収蔵品

① 考古部門

【特色】主に県内の考古資料について収蔵・保管・展示。山形県に人が住み始めた旧石器時代の資料（飯豊町上屋地遺跡）から縄文時代の土器・石器、弥生時代、古墳時代の土器など多数収蔵し、展示や出張博物館などの普及事業に役立てている。また、特に縄文土偶の縄文の女神について隔月で展示解説会を行い、その造形美について解説会を実施。

【主な収蔵品】土偶（縄文の女神）舟形町西ノ前遺跡出土<国宝>
生石 2 遺跡出土弥生土器<県指定有形文化財>
大之越古墳出土品<県指定有形文化財>

② 歴史部門

【特色】山形県の歴史を物語る古文書類、絵図類を中心に収蔵。県内の旧家や寺院に伝わった資料が多く、各地域の行政・経済・文化などを知る手がかりとなる。絵図類には「羽州川通絵図」など最上川舟運に関するもの、「湯殿山道中一覽」など出羽三山に関するものなど。

【主な収蔵品】江戸～昭和期の山形県に関する古文書類
「羽州川通絵図」<山形県指定文化財>などの絵図類

③ 民俗部門

【特色】本館第 2 展示室「米づくりとそのこころ」「農家のいろりばた」に代表されるように、古くから農業県として発展してきた山形の人々の暮らしにまつわる民具を多数収蔵。また、県内各地の郷土玩具（こけし、土人形、凧などのコレクションを含む）および焼き物や雪害調査所関係資料は、県全体を網羅する豊富な収集により近代山形の伝統と暮らしを知ることができる貴重な収蔵品である。

【主な収蔵品】ニセミノ<山形県有形民俗文化財>
雪害調査所関係資料 ほか

④ 教育部門

【特色】教育資料館（分館・教育部門）の建物は、国指定重要文化財「旧山形師範学校本館」。江戸時代から現代に至るまで、山形県の教育に関する歩みを展示・紹介。

【主な収蔵品】江戸時代～昭和期「教科書コレクション」約 12,000 点を収蔵。

(2) 自然系各部門の特色と主な収蔵品

① 地学部門

【特色】ヤマガタダイカイギュウやハダカモミジガイやクジラなど山形県内から産出したものを多く収蔵。全体に対する県内産の割合は、化石 78%、岩石 66%。化石・岩石ともに県内の地層を反映し新生代新第三紀（約 6600 万年前以降）のものが最も多い。

【主な収蔵品】 ヤマガタダイカイギュウ化石＜山形県指定天然記念物＞
ハダカモミジガイ（ひとでの化石）＜山形県指定天然記念物＞
そろばん玉石＜山形県指定天然記念物＞

② 植物部門

【特色】収蔵品には、山形県産維管束植物が絶滅種も含めてほぼ網羅されている。また明治・大正時代に作られた維管束植物標本が多く収蔵されており、それらは過去の植生を知る上で大変貴重。

【主な収蔵品】 結城嘉美、加藤元助、山下一夫、佐藤泉らのコレクション

③ 動物部門

【特色】山形県総合学術調査会で収集した動物資料を基本に発足した。その後、石沢コレクション鳥類標本、世界各地の蝶や貝類など多くの寄贈資料を受け入れた。山形県内の昆虫とくに蛾類の標本も充実。

【主な収蔵品】 山形県産動物標本、石沢慈鳥コレクション鳥類標本
木俣繁コレクション蛾類標本、加藤繁富コレクション
鈴木稔コレクションほかの貝類標本
大石道明コレクションや黒沼孝一コレクションなどの世界の蝶類標本など。